

# 井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日  
 発行・平成24年1月10日・第10号通信  
 責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会長)  
 〒500-8003 岐阜市大宮町1-17 ☎058-263-9540  
 事務局長・河崎良史 E-mail・malo@he.mirai.ne.jp  
 通信編集・作成 馬場わかよ(事務局)

## 参加者は52名 世界遺産の村を日帰り視察研修



参加者そろって記念撮影

### ■視察研修アンケートから

・回答者 46名  
 ・開催時期 良い44名 別の季節 0名 無回答 2名  
 ・集合時間 適当40名 早い5名 遅い0名  
 ・解散時間 適当40名 早い3名 遅い0名  
 ・移動時間 適当31名 短い5名 長い5名  
 ・研修地 適当24名 期待以上20名 期待はずれ0名  
 ・地元交流 良かった39名 工夫が必要2名 不十分0名  
 ・食事内容 適当33名 旨い9名 口に合わなかった0名  
 その他、他の地域の事例を見ることにより井の口地区を見直すきっかけになった(28名)、まちづくり活動に興味を持つことができた(14名)などが記され、37名の方が「次回もぜひ参加したい」と答えられました。

いにしへの風景と文化を継承している世界遺産で有名な「五箇山」と「白川郷」に11月6日(日)、小雨が降りしきるなか会員とその家族、総勢52名の参加を得て出かけました。

最初の到着地、五箇山相倉では2班に分かれて地元ボランティアガイドさんによる説明を受けながら集落を見学し、菅沼集落では昼食場所で地元ガイドさんの絶妙なお話を聞いた後、あいにくの大雨に降られながら見学しました。

最後に訪れた白川郷では、バスの駐車場で前村長であり堀会長の知人で森みち子さんの同級生でもある谷口氏から世界遺産登録に至ったお話が聞けました。その後自由時間を堪能して、皆さんお土産を手土産に帰途につきました。

### ●視察研修に参加して

まの歴史探検部会 塚原 紀好

11月6日小雨降る美濃国井の口を出て、一路飛騨国へ出発。東海北陸道を北へと向かいバスの窓より霧霞む山々の紅葉を楽しみながら(2)2時間50分後富山の五箇山へ到着。

世界遺産の相倉合掌造りの集落では2班に分かれて素敵なガイドさんに集落の中を案内され、左手に傘、右手にカメラを持って地主神社、西方道場などを探索。さすが世界遺産古く歴史が埋もれてる。

菅沼集落では昼食をいただきながらまちづくりのお話を聞く。ここでもやはり歴史が古い話が聞けてよかった。村の人たちが世界遺産に向けて協力しているのが分かる。合掌造りの話、硝酸、大麻、蕎麦…いっぱい聞く。そして白川郷へ。ここも村人や村長の頑張りや世界遺産への努力が実り、観光客が年間150万人来ると聞き驚いた。毎年素晴らしい研修先を企画してくれてありがとう。

### ●満足感を味わった研修の旅

森 みち子

雨に煙る遅めの紅葉を車窓に見ながら、五箇山相倉集落に到着。いま尚人々の生活の場となっている日本で唯一の世界遺産だということ。そしてここは加賀藩、富山県です。年貢は米ではなく秘密に造った爆薬だったと聞きびっくりしました。

菅沼集落の合掌の里ではなつかしい母親の味がする郷土料理、ご飯にきな粉をかけていただきました。世界遺産と高速道路で観光客の人数は増えても地元で落ちるお金は少なく、あぐらをかいてる訳にはいかず、夜にかけてのイベントを考えるなど努力しているというお話を聞きました。

最後の白川郷集落では、前村長谷口様から、賛否両論ある中で世界遺産に選ばれた苦勞話や、厳しい制約の中で毎日の生活ではあるがみんな協力と努力をしてみえるお話を聞きました。

今回の旅行で、先人が残してくれたものを自分達の手で守らなければという強い思いを感じました。私たちも井の口に残る財産を活かす方法を考えなければと思いました。



傘をさしながら五箇山菅沼集落を見学する参加者

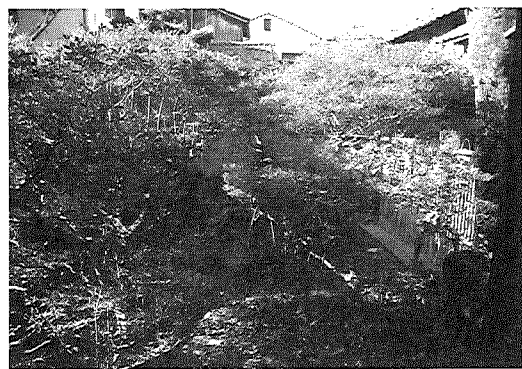
## ドウダンつつじ観賞会開催

**紅葉のお庭を眺めてお抹茶を!**

かねてから会員および皆さまからご要望のあった、河村邸のドウダンつつじの観賞会を11月20日(日)に開催しました。

下茶屋町にある河村邸は築百年以上の町家で、向かい合う坪庭と中庭にドウダンつつじが10本ほどあり、秋は真っ赤な色合いが見事です。当日は暖かい日が続く紅葉には少し早かったにもかかわらず、午前午後合わせて約60人の来場がありました。

両方のお庭が見渡せる和室で希望者に300円でお抹茶を味わっていただき、暖かい秋のひとつ



ドウダンつつじが紅葉した庭

きを堪能していただきました。この度も河村様の心あるご配慮に感謝いたします。(伊藤)

## 10月9日(日)~12日(水) まちなかお月見アートを開催

**スタンプリーでぜんざいに舌鼓!**

金華山にかかる十三夜をめぐる「まちなかお月見アート」を、10月9日から4日間開催しました。まちなかアート部会のメンバーが河原などで調達したススキを、妙照寺から大仏殿にかけてのエリア、戦国の大道に面したエリア、伊藤宅がある下茶屋町エリアを中心に井の口地区内のあちこちのお宅の軒先に飾っていただき、町並みにお月見の風情を演出しました。

また、大仏殿の道路に面した軒下では後藤讓氏のアート作品「大月殿」が展示され、大きな



ゴールの伊藤家にてぜんざいのふるまい

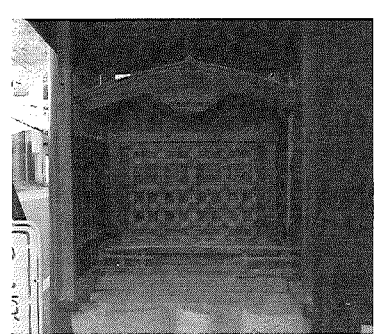
お月見の町並み

な白い半月の布が風にゆれ、ライトアップされて幻想的な雰囲気を作り出しました。

10日の体育の日の夜にはスタンプリーを開催し、ススキ飾りを眺めながら月明かりのまちを散策。ゴールの伊藤家で会員手づくりのぜんざいのふるまいに皆で舌鼓を打ち、お月見の夜を賑やかに過ごしました。



彫刻家・後藤讓氏の作品「大月殿」4日間大仏殿の軒下に展示され、夜はライトアップされた。



金華地区では、どの町内にもお祭りしてある秋葉様。鎮火の神が町を守り、近隣住人の安らぎと抛り所にもなっています。

今町3丁目と戦国の大道の交差点角にも目を引くお社があります。大きな石を積んだ台の上に祭られた秋葉様で、かつては3丁目の真ん中あたりのお宅の角にあったのですが、その家の外観工事の際、通用口を設けるためにどけてほしいとなつて、共有地である今の場所に移したものだ、この地に嫁いで50年以上という池戸さんに伺いました。(馬場)

屋根の上に祭られていたこの秋葉様は「多分濃尾震災以降の物だろう」と木村さんは言われます。龍などの彫刻が施された凝った造りのお社です。「屋根の上にあった証拠に、台座を見てもうと斜になっている。その下に木で台を造ってはめ込んであるんやよ」と説明していただきました。



**まちなかお月見アート発見**  
 今町2丁目・今町3丁目  
**秋葉様(屋根上の神様)**

今町2丁目を通ると立派なお社の秋葉様が祭ってあり目を引きまます。現レシール今町が建つその場所にはかつて四軒長屋があつて、その長屋の屋根の上に祭つてあつた秋葉様です。建て直しが決まった10年ほど前に預かり、施工先であつた雑屋建設に交渉し、お祭りする場所を造っていただけたと、いきさつに詳しいお隣の木村さんから伺いました。

### 1月 イベントのご案内

## まちなかアート部会 大仏様への年賀状

1月13日(金)～15日(日)光芳堂にて展示

1月10日まで手づくり年賀状を大仏殿で受け付けています

毎年あなたが描かれる年賀状の中の一枚を、慈悲溢れる正法寺の大仏さまに、新しい年の抱負や祈願、報告、思いなどを書き添えて差し上げてはいかがでしょうか。

年賀状は手づくり、オリジナルであることが条件で、はがきの大きさはあれば千支のイラストや筆文字・版画・貼り絵・風景画・パソコンを使用したものなど何でもよく、題材・内容も自由です。大仏さまに届けられた個性豊かな年賀状は、アート作品として皆さまに見ていただきます。

※皆さまのご来場をお待ちしています。

リーダー 伊藤いづお

■大仏様への年賀状送付方法

〒500-08018 岐阜市大仏町  
ぎふ大仏様 宛に郵送

・大仏殿正面の投函箱に直接投函

※1月10日までに届けていただいた手づくりの年賀状はすべて、左記の日程で皆さまに見ていただきます。

■大仏様への年賀状展

場所 画廊・光芳堂(梶川町)

期間 1月13日(金)～15日(日)

時間 10時～17時(最終日16時)

### 2月 イベントのご案内

## イベント部会 井の口寄席

2月26日(日)大仏殿庫裏にて

第9回全国日本学生落語選手権「策伝大賞」の出演者による井の口の学生落語会です。井の口での開催としては4年目となり、昨年と同じ正法寺庫裏にて開催します。昨年は百名を超える入場者がありました。当夜は8名ほどの出演を予定しています。入場は午後5時30分から、開演は6時の予定です。多くの皆さまのご来場をお待ちしていますが、小さいお子さんのご同伴はご遠慮ください。

■木戸銭・300円(全額学生落語支援団体に寄贈)

※中入りには温かい豚汁のふるまいがあります。

リーダー 杉山 秀子



昨年の井の口寄席の様子

### 3月 イベントのご案内

## まちの歴史探索部会 竹中半兵衛と岐阜城

3月11日(日)14時～妙照寺にて40名

亀田剛広氏による竹中半兵衛の歴史講話を開催します

二顧の礼でもって迎えられた中国の軍師諸葛孔明に比較される、わが国の戦国時代の代表的な軍師である竹中半兵衛の屋敷跡が、妙照寺に見受けられます。

妙照寺は現在修復中ですが、修復の一部終了を記念しまして、芭蕉が約1カ月前滞在した「芭蕉の間」において、竹中半兵衛の出身地である垂井町教育委員会の亀田剛広氏による、半兵衛の岐阜における活躍を中心とした歴史講話を予定しています。

※例年の句会企画を変更いたしました。

リーダー 中村 末雄

■演題「竹中半兵衛と岐阜城」

場所 妙照寺(梶川町) 芭蕉の間

日時 3月11日(日) 14時～15時

定員 40人(先着順で締め切り)

費用 無料

■亀田剛広氏の略歴

H21年 垂井町役場に奉職

H23年 垂井町教育委員会 学芸員

事務所 タルイピアセンター

※お申し込みは、左下の申込用紙に記入して堀会長(大宮町1-17 TEL2631-9540)へ提出。問い合わせも堀会長へ。

### まちの風景検討部会 景観住民アンケート集計経過報告とお礼

ご協力ありがとうございました

リーダー 小林 孝夫

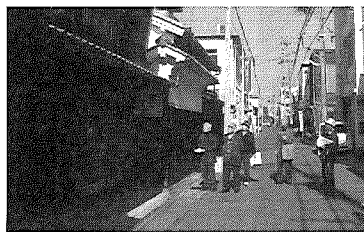
10月に実施しました「井の口景観アンケート」に皆さまのご協力をいただき、誠にありがとうございました。特に、地区内自治会長様におかれましては配布、回収等に多大なご尽力を賜り、大変失礼ながら通信にて厚くお礼申し上げます。

回収率は27.5%でした。ご町内によっては50%を超えるところもあり、ご回答いただいた方々の熱い「思い」にお応えできる活動を継続しなければならぬと考えております。

ご回答の多くには、井の口の魅力と誇りを感じるもの、生活する上で多くの課題も見受けられました。まちの風景検討部会では、これらの集計結果につきまして、井の口まちづくり会の事務局メンバーでもある「金華まちづくり研究会」の方々とともに分析し、岐阜市との比較分析なども交えまして、次号通信にまとめて掲載させていただきます。

また、集計から読み取れる事柄につきましても、住民皆さまの意向を反映して、今後の活動方針に活かしていきたいと思っております。

このように、自治会長様をはじめとする皆さまのお陰をもちまして、井の口まちづくり会の活動にとっても貴重な資料となりましたことに改めて感謝申し上げます。まちの財産でもある景観を守る活動を考えていきます。



井の口の町並み

### 「景観住民アンケート」から まちづくり会活動への「評価」

アンケートの第5章、「まちづくり会」に関する質問項目では、まちづくり会活動に対して57%の方が「評価する」と回答していただき、ありがとうございます。しかし、「活動内容が分からない」との指摘も36%あり、活動の実態を皆さまにご理解いただくための努力をしていかなければと確認させていただきました。

また、本紙「通信」に関しましては、「現状のままでもよい」という肯定的なご意見が73%あり、今まで同様、通信を通じて活動内容の発信や情報提供に努めていきたいと存じます。

詳しくは次号通信に掲載いたしますが、まずは、井の口まちづくり会への高い評価に感謝を申し上げますとともに、今後もまちづくり会員の拡大や、部会員として一緒に活動していただくお誘いに力を入れ、誰もが参加しやすい開かれたまちづくり会活動に努めてまいります。

### 事務局だより

事務局長 河崎良史

新年明けましておめでとうございます。昨年は震災などいろいろ大変なことが起きた年になりました。また、まちづくり会としましては5年めを迎えようとしており、井の口地区の特色を生かした活動へのご協力を今年もよろしく願います。

文化財の種類には、美術工芸品、建造物などの「有形文化財」や、高山市二之町・三之町などの「伝統的建造物群」。その他「無形文化財」「民族文化財」「記念物」があげられます。そして、平成16年に「文化的景観」という新しい文化財のジャンルが創設されました。簡単に説明しますと、地域における人々の生活または生業および当該地域の風土により形成された景観地と定義されています。

この「文化的景観」の指定に向けて岐阜市が前向きに検討しています。長良川流域と鶴飼、そして戦国時代から変わらない町並みの形態。それらをひっくるめて指定を受けたく、努力していることです。

井の口まちづくり会地区も当然、指定区域に入ります。指定された場合、今後の景観形成のための事業等に国からの助成金をいただくことが可能で、私たちのまちにとっても重要な指定となります。今後の動静を注目していきたいものです。

### 歴史講話会 参加申込書

氏名	〒	—
住所	TEL	—
〇で囲む	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 会員家族 <input type="checkbox"/> 非会員 <input type="checkbox"/> 新規会員の申し込み*	

\*井の口まちづくり会の年会費は1口500円です。